

名古屋市立大学病院

病院長名	松川 則之
所在地	〒467-8602 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1
交通案内	地下鉄：桜山駅下車3番出口 直結 市バス：「市立大学病院」または「市立大学病院」下車

□ 病院の特徴

当院は800床の病床、32の診療科を有し、地域の中核医療機関として日々安全で開かれた医療を提供しています。がん診療拠点病院や救命救急センターの指定・認定を受け、高度急性期病院・特定機能病院としての役割を果たすよう努めると共に、教育研究機関として優れた医療人の育成に努めています。また、令和3年には東部・西部医療センター、令和5年にはみどり市民・みらい光生病院、令和7年にはリハビリテーション病院が名古屋市立大学の医学部附属病院になり、全国最大規模の大学病院群となりました。令和8年度には救急災害医療センターの開棟を予定しており、より一層進化を続けております。

□ 研修プログラムの特徴

名古屋市立大学眼科専門研修プログラム

原則後期研修1年目（2年目の場合もあり）に大学病院*で眼科診療における必要な検査・診察法を学びます。一般病院では稀な症例を多く経験し、手術の助手にもはいるます。2年目以降は日本眼科学会専門医制度研修施設で外来診療を行うとともに、白内障手術をはじめ様々な手術を段階的に執刀していきます。またさらなる手術の研鑽、研究、海外留学など、様々な希望に応じたキャリアプランを用意しています。眼科医として社会人として優れた人材育成を目標に、指導医が一丸となって情熱を持って指導にあたります。

＜研修モデル＞



*グループA病院（専門研修連携施設A）：日本眼科学会指導医もしくはそれに準ずる指導医が在籍し、年間手術症例数500件以上の病院
**グループB病院（専門研修連携施設B）：日本眼科学会専門医が在籍し、地域医療を担う病院

詳細は名古屋市立大学病院総合研修センターHPを参照

http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/kensyu-c.dir/specialist_prg/dept.html



□ 主な連携施設

名古屋市立大学医学部附属東部医療センター、名古屋市立大学医学部附属西部医療センター、豊田厚生病院、大同病院、中部国際医療センター、菰野厚生病院、稲沢厚生病院、蒲郡市民病院、大垣徳洲会病院、知多厚生病院、多治見市民病院、泰玄会病院、新都市クリニック、城西病院、ヨナハ丘の上病院、小林記念病院、名古屋徳洲会病院、清流病院、など全18施設

□ メッセージ

眼科 部長 安川 カ

One for All, All for One.

名市大眼科では網膜硝子体疾患を中心に視覚障害の原因となる疾患の治療、病態解明に力を入れています。眼球は光を感じる臓器ゆえに21世紀に入り光を用いた画像機器の進歩が著しく、確かな診断のもと、最新のレーザー治療機器・マイクロサージェリー機器を用いて低侵襲で安全な手術治療、確かな治療評価を行っています。患者本位の洗練された診療のため、大学病院として、現在の治療に満足せず、最先端の治療法を取り入れ、また、独自の治療、病態研究を行い、世界に発信しています。若い眼科医の育成を大切に、個々の価値観・ライフスタイルを尊重して個性を伸ばして、チームとして助け合い、安全管理・医療の知識・技術を補完して、One for All, All for Oneの精神で結束し、総合力を高めていきます。



□ 募集要項

※名古屋市立大学病院で勤務する場合

・採用予定人数	数十人	※全領域あわせた人数であり、領域別の詳細の人数は各プログラム責任者と相談の上決定
・給与／月額	357,900円～436,200円 (勤務区分・各診療科の外勤の状況により異なる)	
・当直回数／月	4回程度（診療科により異なる）	
・当直料／回	24,000円～34,000円	
・その他	年間有給休暇20日間、通勤手当、超過勤務手当、共済組合、厚生年金保険、雇用保険、労災保険等あり	
・応募連絡先	担当者 電話番号 Eメール	管理課 医療人連携・育成支援係 専攻医募集担当 052-858-7527 s-kensyu@med.nagoya-cu.ac.jp